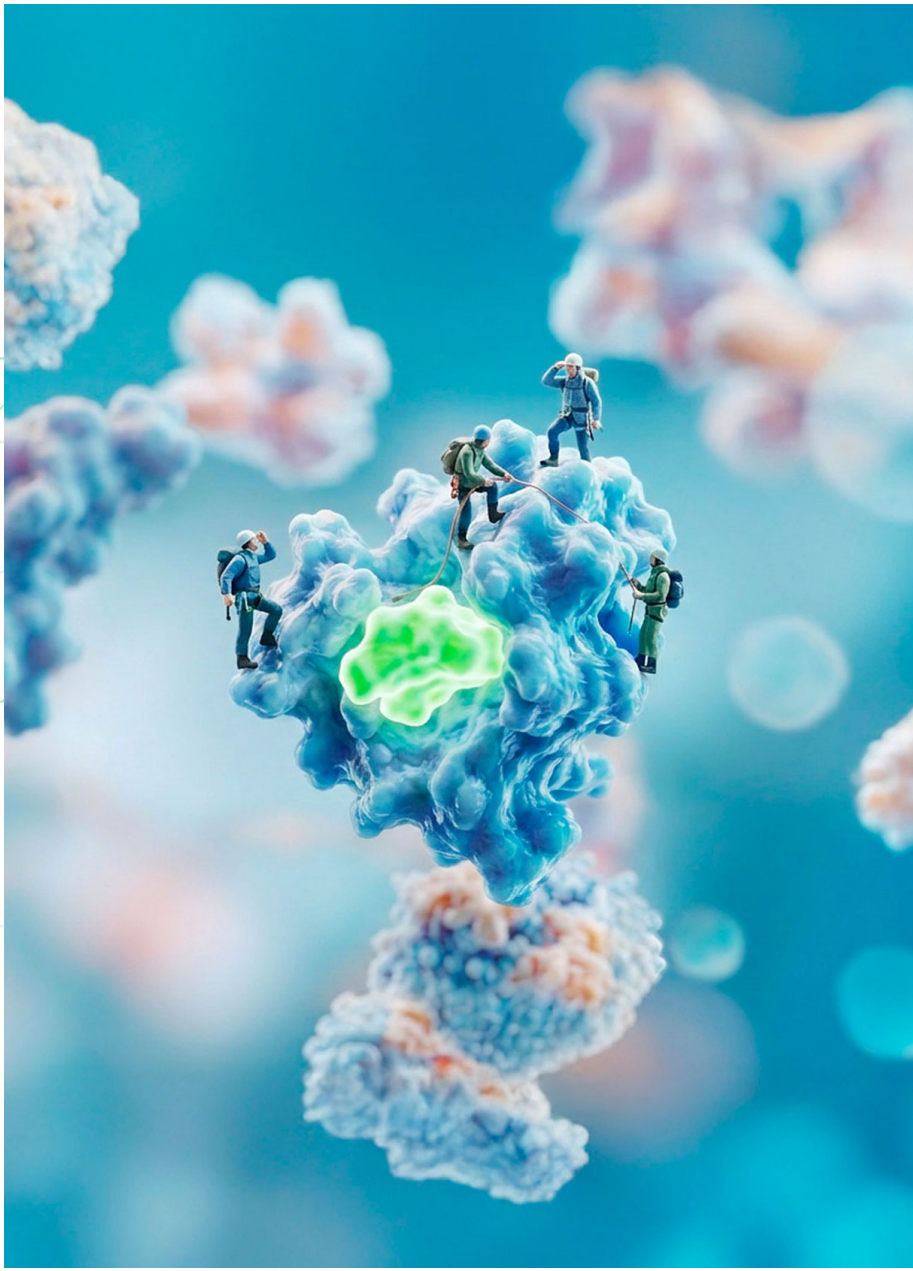
PRISM BioLab

2026年９月期
決算説明資料

新たな挑戦のフェーズへ

2026/11/16 PRISM BioLab



免責事項

本資料は、株式会社PRISM BioLab（以下「当社」といいます）の企業情報等の提供のみを目的として作成されたものであり、日本、米国その他の法域における当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

当社は、本資料に含まれる情報または意見の公平性、正確性、完全性または正当性について、明示的または黙示的に表明または保証をするものではありませんので、これらに依拠することのないようお願いします。本資料の使用または内容等に関して生じたいかなる損害について、当社は一切の責任を負いません。また、本資料の内容は事前の通知なく大幅に変更されることがあります。

本資料には、当社の現在の見通し、予想、目標、計画などを含む将来に関する見通しが含まれています。このような将来に関する見通しは、当社が本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社の現在の前提及び見解に基づくものであり、経営陣による将来の業績の保証を表すものではありません。当社は、将来に関する見通しであることを示すために、全てではありませんが、多くの場合、「目的」、「予想」、「確信」、「継続」、「努力」、「想定」、「期待」、「予定」、「意図」、「する場合がある」、「計画」、「見込み」、「可能性」、「予測」、「リスク」、「努める」、「するべきである」、「目標」、「する予定である」等の語句およびこれと同様の意味を有する語句を用いています。また、戦略、計画または意図の議論においても将来に関する見通しが含まれます。これらの見通しは、将来の予想を議論し、戦略を特定し、経営成績または当社の財務状態の予測を含み、または当社の事業および業界、将来の事業戦略ならびに将来において当社が営業を行う環境に関する当社の現在における予想、想定、見積もりおよび予測に基づくその他の将来に関する情報を記載するものです。既知および未知のリスク、不確実性およびその他の要因により、当社の実際の業績は、将来に関する見通しに記載されまたは示唆されるものとは大幅に異なる可能性があります。当社は、これらの将来に関する見通しに記載される予想が正確なものであることを保証することはできません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記載を更新し公表する義務を負いません。

INDEX

01. 2026年度の成果と事業の転換点

02. 創薬研究基盤の構築と進化

03. 有望な創薬資産の顕在化

04. HitからLeadへの価値向上と収益化

05. 臨床プログラムと今後の成長

Appendix 詳細財務諸表





PRISM BioLab

01. 2026年度の成果と事業の転換点





PRISMは、創薬資産の価値を実現する新たなステージへ

- 潜在価値が高い創薬研究基盤から、価値を顕在化させ創薬資産を創造

2025年度以前

01　潜在価値の構築

創薬研究基盤の構築

PepMetics®ライブラリー
HTS・薬理・構造解析等の統合
創薬標的の継続的な探索

創薬を自社で推進する体制

2026年度

02　価値の顕在化

創薬資産の構築

年間10件規模のHit探索体制
SAB等を活用した標的の検証
有望な標的で新規Hitを5件創出

技術基盤が自社資産を生む

2027年度～

03　価値の実現へ

資産価値の収益化

高価値プログラムを優先
Hit → Leadへの進展を加速
Lead段階から導出機会を追求

新規ライセンス収益を創出

経営の重点：創薬研究基盤の構築・進化 → 有望な創薬資産の継続的創出 → ライセンスによる価値実現

2026年度の主要成果と経営上の意味

- PepMeticsライブラリーのHTSから多くの新規Hitを創出し、将来につながる創薬資産を構築

12件

Hit探索開始プログラム

2025年度下期開始分含む

7件

評価結果が得られた件数

2026年9月末時点

5件

Hit取得プログラム

評価結果が得られた7件中

5／7＝約71%（評価が完了したプログラムに限ったHit取得率）

長年にわたり構築・進化させてきた創薬研究基盤が、複数の有望な標的でHitを創出する成果につながった

共同研究でもHitの創出や最適化の過程を通じ、難しい標的に対する創薬においてPepMeticsの有用性を示した

V

02. 創薬研究基盤の構築と進化





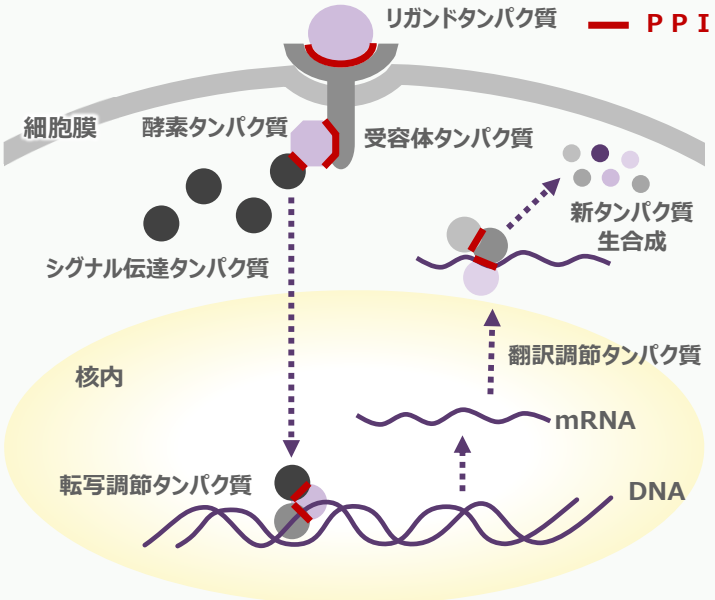
PRISM BioLab

7

PPI創薬の可能性と課題：重要でありながら創薬が難しい標的

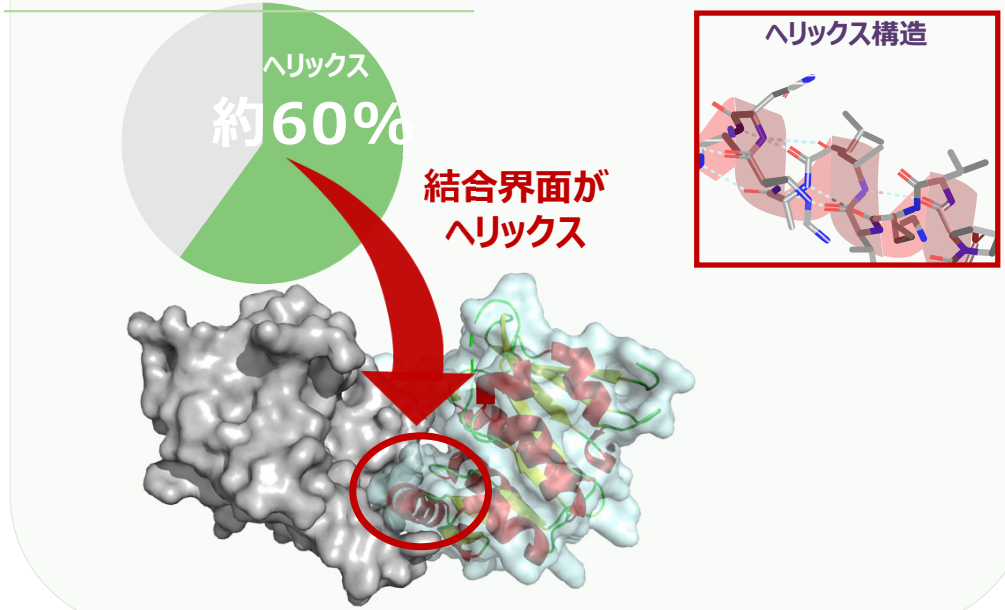
- 疾患に関わるタンパク質間相互作用（PPI）に、新しい低分子創薬の機会

1 細胞内に存在する重要な標的



多様な細胞機能を調節するPPIは、
がん等の疾患に関わる有望な標的

2 PPIではヘリックス構造が多い

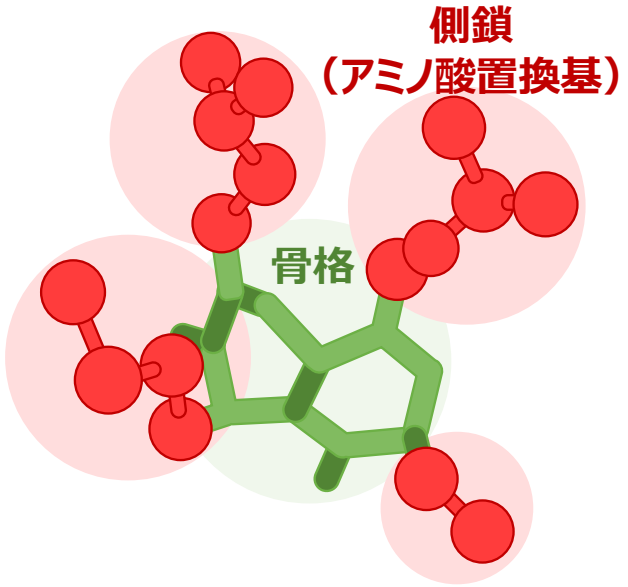


創薬の機会　：　従来手法で十分に攻略できなかった細胞内PPIへのアプローチ

PepMetics®：タンパク質の構造を模倣する独自の低分子技術

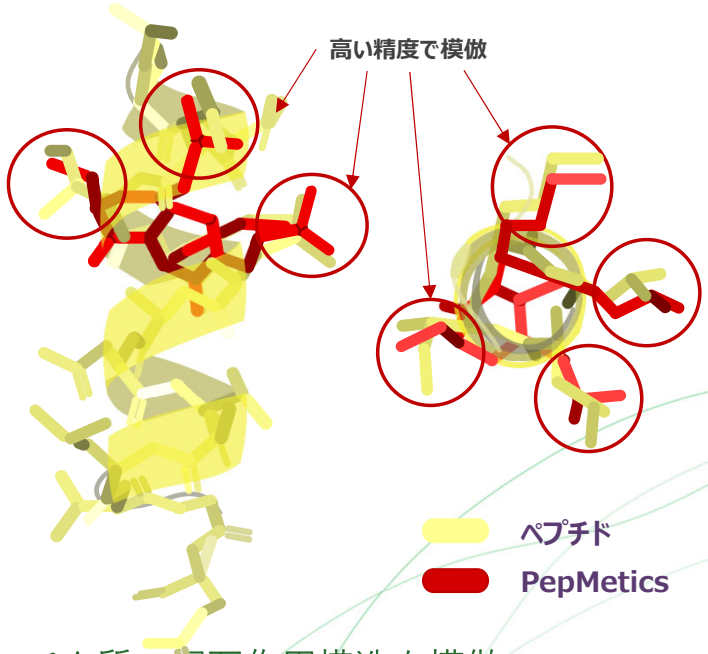
3 PepMeticsはヘリックス構造を模倣できる

PepMetics化合物の構造



独自の分子骨格 ＋ 組み合わせ可能な側鎖

ヘリックス構造を模倣



天然タンパク質の相互作用構造を模倣

従来の低分子は平面的であったが、**PepMetics**の立体的な骨格によってヘリックスの模倣が可能となった

創薬に必要な専門機能を統合し、Hit創出からLead最適化までを一貫して推進

- PepMetics®ライブラリーを中核に、「創薬研究基盤」を構築

化学・ライブラリー
独自骨格／合成・精製／化合物最適化

生化学・細胞評価
Biochemical assay／細胞薬理／HTS

生物物理・結合評価
SPR等／結合特性

構造生物学
X線結晶構造解析／結合様式の解明

計算化学・AI
分子設計／活性・物性予測／解析

創薬研究・評価基盤
DMPK・物性評価／研究データ統合

標的探索・評価 → 化学・ライブラリー → HTS　Hit探索 → 多面的なHit検証 → Lead創出

長年の基盤構築の成果が、2026年度の新規Hit 5件創出につながった

03. 有望な創薬資産の顕在化





市場性と差別化を起点に、創薬標的を継続的に選定

- 技術に合っていることに加え、製薬企業が開発したい標的を選ぶ

01 市場性

- 明確なアンメットニーズ
- 検証済みの作用機序
- 製薬企業の開発意欲
- 対象市場と競争環境

02 差別化

- 既存治療の限界を把握
- 新しい作用機序・投与経路
- 競合品との相対的優位性

03 創薬実現性

- PepMetics®との適合性
- アッセイ・構造情報の確保
- HitからLead、臨床候補への展開可能性

SAB等の外部専門家による科学的検証 × 社内の創薬・事業開発判断

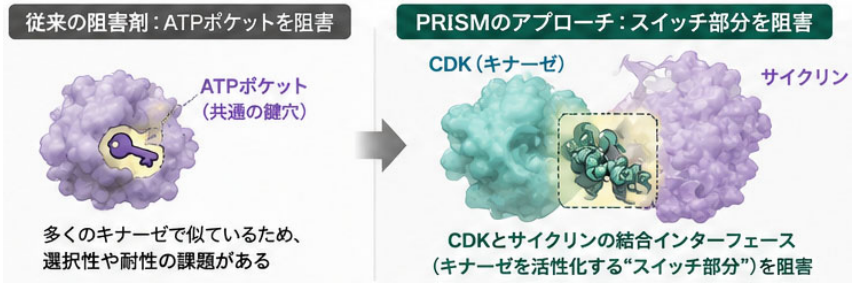
潜在市場が大きく、技術的な差別化を示せるプログラムを継続的に蓄積

確立された創薬標的に差別化されたアプローチ

既存市場の未解決課題に、異なる作用機序で挑む。

キナーゼ関連PPI

既存薬にはATP結合部位を標的とするものが多い。
PRISMはCDK/Cyclin関連の相互作用など、異なる阻害機序を追求。

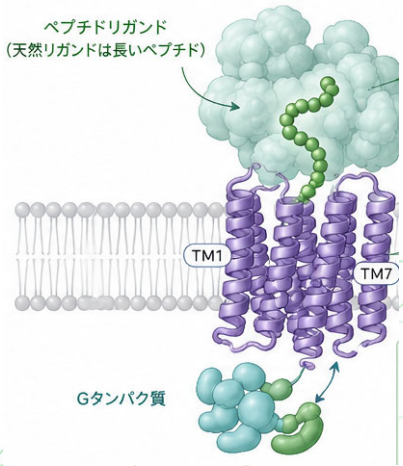


Class B GPCR

天然リガンドがペプチド

従来ペプチド医薬品が中心の標的群に対して低分子でのHitを創出

目指す価値：投与経路・利便性等での差別化。



市場性の高さ × 既存技術との差別化 × 研究開発上の実現可能性



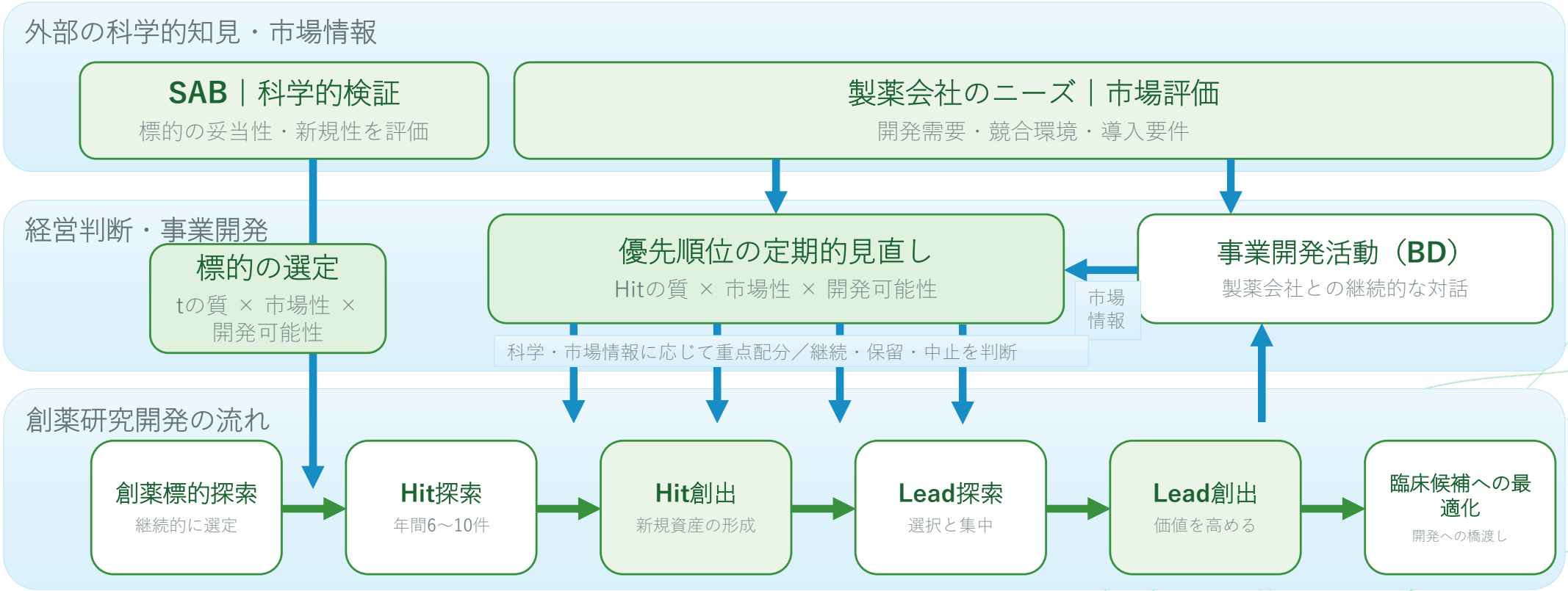
市場価値の高い複数の創薬プログラムを育成

創薬標的	対象領域	差別化の方向性
CDK/Cyclin PPI	がん	異なる阻害機序を追求
Class B GPCR-a	肥満症	低分子医薬品の創出を目指す
Class B GPCR-b	希少疾患	ペプチド領域の新しい治療選択肢
Transporter PPI	自己免疫疾患	新たな作用機序を探索
その他のPPI関連	がん・線維症など	複数の標的を並行して評価

※開発上の目標を含み、臨床的優位性・ライセンス条件を示すものではありません。



市場ニーズと科学的評価で、創薬ポートフォリオを継続的に進化



継続的な**Hit創出** × 動的な優先順位の更新 → 市場ニーズに合致する高価値パイプラインを維持

Pipeline

Target	Indication	HTS	Hit ID	H2L	Lead Op	Clinical Dev	Partner
CBP/β Catenin PPI	Cancer					Phase II	Eisai
CBP/β Catenin PPI	Fibrosis					Phase II	OHARA
eIF4e/4EBP1 PPI	Cancer						
Undisclosed PPI	Fibrosis						
CDKa/Cyclin PPI	Cancer						
CDKb/Cyclin PPI	Cancer						
Type B GPCR-a	Obesity						
Type B GPCR-b	SBS (rare disease)						
Transporter PPI	Autoimmune						
Kinase PPI	Fibrosis						
Nuclear receptor PPI	Cancer						
CDKc/Cyclin PPI	Cancer						
Transcriptional factor PPI	Cancer						
Membrane protein PPI	Fibrosis						

04. HitからLeadへの価値向上と収益化



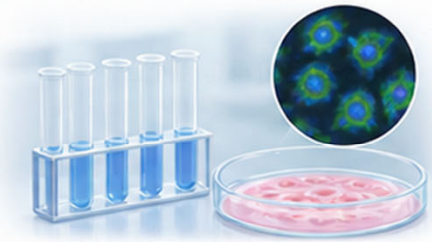


HitからLeadへ：ライセンス価値を実現する鍵

Hitで創薬可能性が顕在化。魅力的な標的では、動物での薬効等を確認したLeadが重要な導出検討時期

Hit

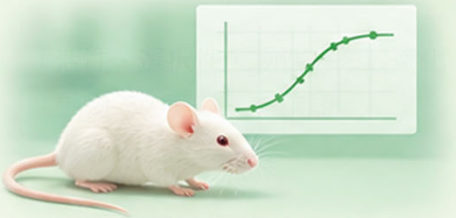
創薬可能性を確認



- ✓ 標的に作用する化合物を発見
- ✓ 関心は得られても開発リスクが大きい

Lead

価値実現への転換点



- ✓ 活性・選択性・物性等を最適化
- ✓ 動物での薬効等を確認

需要の高い標的なら導入検討が具体化

臨床候補

開発可能性を高める



- ✓ 非臨床開発に向けた候補を選定
- ✓ 導出条件の検討が進む

臨床

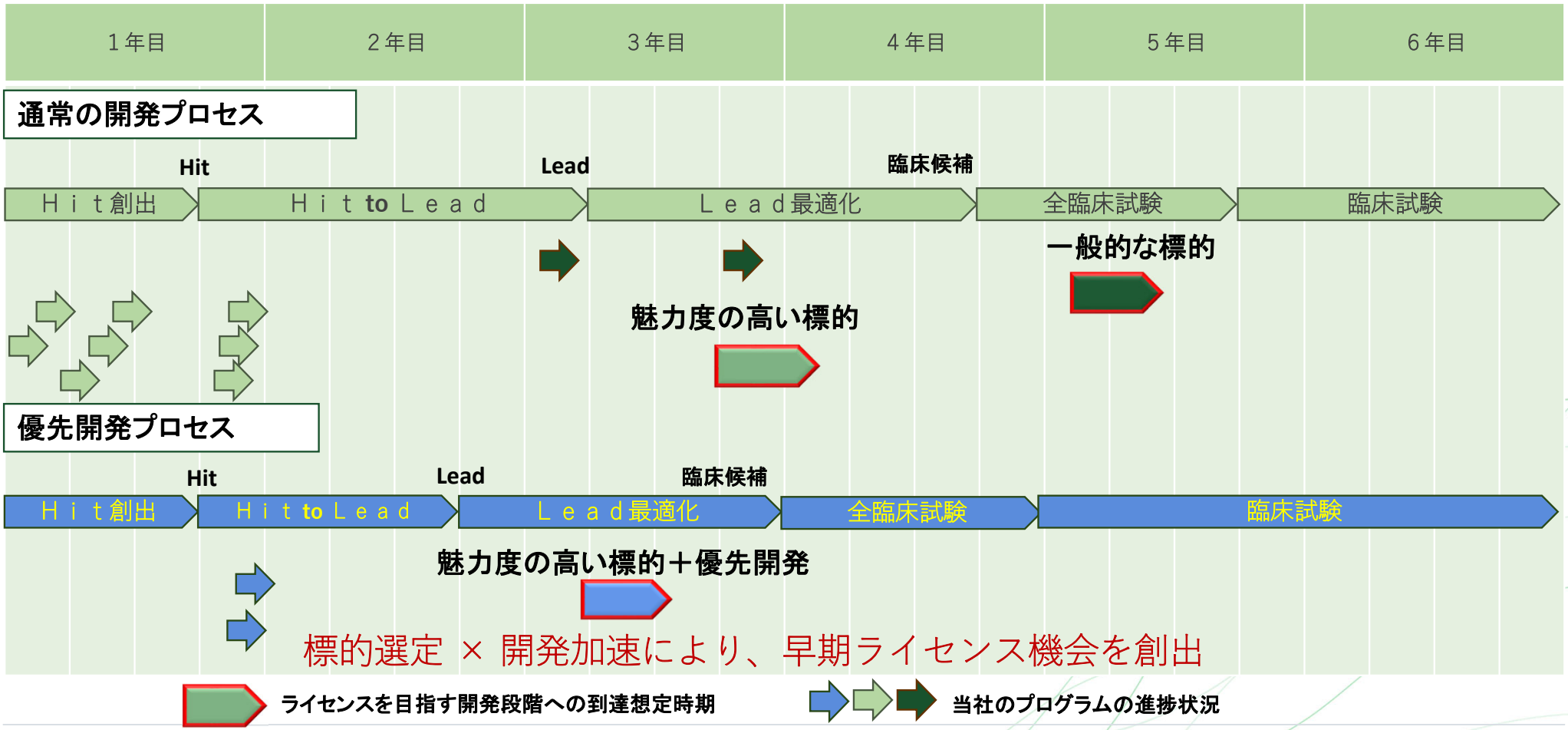
ヒトで検証



- ✓ 安全性・有効性等を評価
- ✓ より広範な導入検討

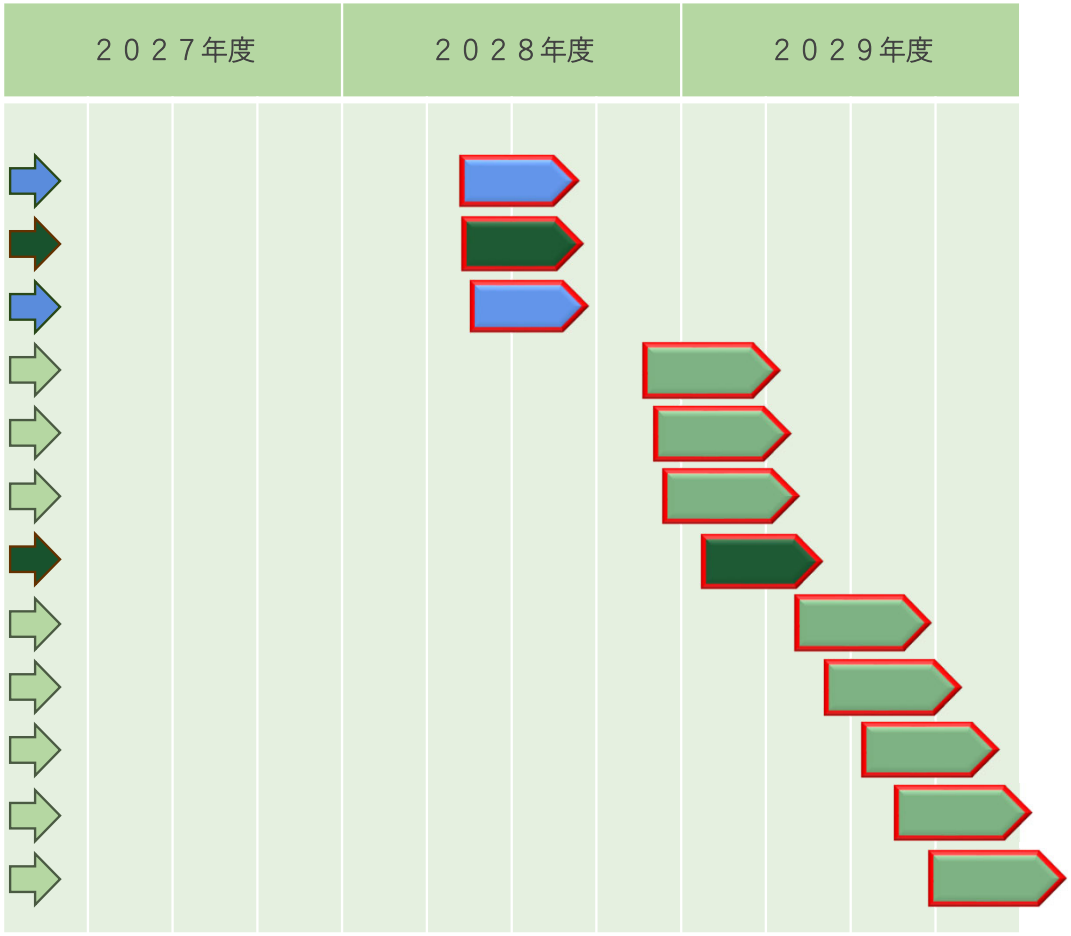
PRISMの重点：市場性・差別化の高いHitを選定し、Lead創出と事業開発を並行して推進

市場性の高い標的選定と開発加速により、早期ライセンスを目指す



※これは各プログラムの開発計画に基づく想定であり、ライセンス契約の成立時期・件数を示すものではありません

複数の創薬プログラムから、2028年度以降のライセンス機会を創出



市場性の高い創薬標的を選定し、早期ライセンスの機会を創出

優先プログラムへの集中投資により、**Lead**創出を加速

複数のライセンス候補を継続的に形成し、収益化の可能性を高める

当社のプログラムの進捗状況

ライセンスを目指すタイミング

継続的なライセンス収益による持続可能な事業モデル

2026年度 実績

有望Hitの蓄積

継続的な標的選定と探索
個別プログラムの中止にも備える

新規Hit 5件
価値ある標的で候補を獲得

2027年度 目標

優先Leadへの投資

動物薬効等のデータを取得
BD活動を並行して進める

Lead創出 3件
新規Hit創出 4件
製薬企業との協議を並行

2028年度以降

ライセンス収益

大型契約・複数契約を追求
一時金／研究費／マイルストン

複数のライセンス機会
研究開発投資を支える収益へ

目指す循環型事業モデル：
継続的なHit創出 → Lead創出 → 複数のライセンス機会 → ライセンス収益による研究開発投資

05. 臨床プログラムと今後の成長





既存の臨床開発資産：創薬能力を示す導出実績

- 製薬企業２社に導出し、第Ⅱ相臨床試験を進めている

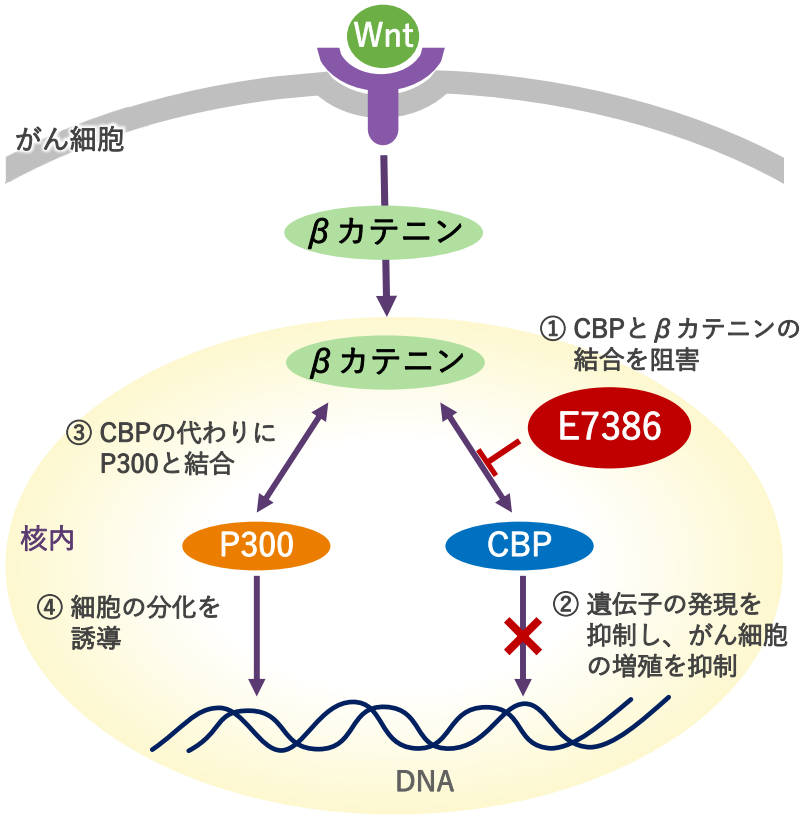
提携先	開発品コード	契約締結年月	経済条件	契約内容及び進捗状況
Eisai	E7386※1	2011年4月	• 一時金、開発、販売等に対するマイルストン及び研究費を含めて250億円以上 • ロイヤリティ：非開示	• 対象製品に対するライセンス契約 • 共同で創製した中分子化合物であるCREB-binding protein （CBP）/β-catenin（β-カテニン） 相互作用阻害剤E7386 について、2021年11月に臨床におけるPOCを達成 • 2026年10月にeClinicalMedicine誌で発表した後期第Ⅰb相／第Ⅱ相臨床試験の用量拡大コホート結果において、E7386と「レンビマ®」の併用療法は管理可能な安全性プロファイルと有望な抗腫瘍活性を示した • エーザイは、用量最適化パート（第Ⅱ相）の患者登録を完了し、2026年度中（～2027年３月）にトップラインデータを取得
OHARA	PRI-724 (OP-724※2)	2018年5月	• 非開示	• 当社の保有する特許権及び特許を受ける権利について、日本国内の専用実施権を許諾する契約 • 2023年7月より、CBP/β-カテニン阻害薬OP-724のC型・B型肝炎ウイルス（コホートA）またはMASH※2（コホートB）に起因する非代償性肝硬変患者を対象とした第Ⅱ相臨床試験を開始 • 2026年10月にコホートBの主要評価項目未達を発表、コホートAを継続実施中

※1：E7386はエーザイと共同創製した化合物
※2：大原薬品工業開発コード
※3：代謝機能障害関連脂肪肝炎、旧名：非アルコール性脂肪肝炎（NASH）

臨床開発プログラム

E7386は第Ib相試験において腫瘍縮小効果を示した

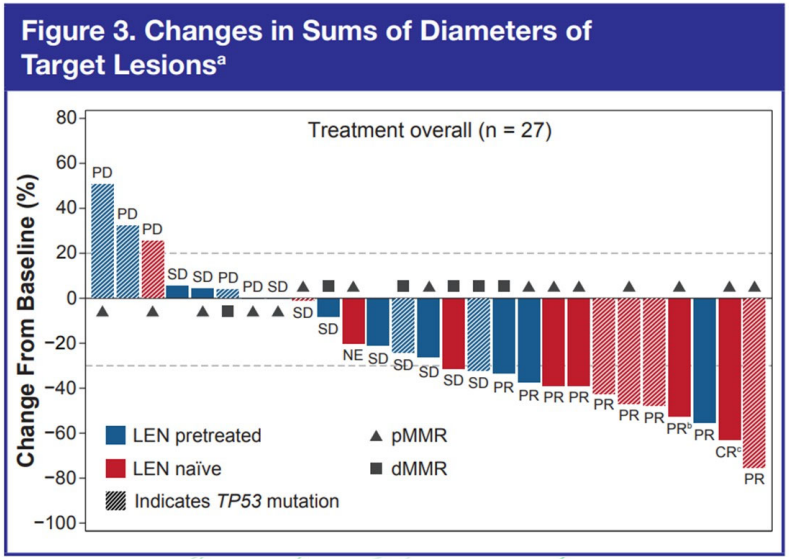
E7386の作用機序



第Ib/ II 相試験の臨床試験データ※2

＜eClinicalMedicine概要＞ ※用量拡大パート

- ✓ 進行子宮内膜がんを対象。登録患者30例に対する客観的奏効率(ORR)は36.7%であった
- ✓ レンバチニブ未治療患者群ではORR 57.1%（8/14例）であった
- ✓ Grade 4/5の有害事象は認められず、管理可能な安全性プロファイルを確認
- ✓ 第 II 相試験の患者登録完了、2026年度中（～2027年 3 月）にトップラインデータ取得予定

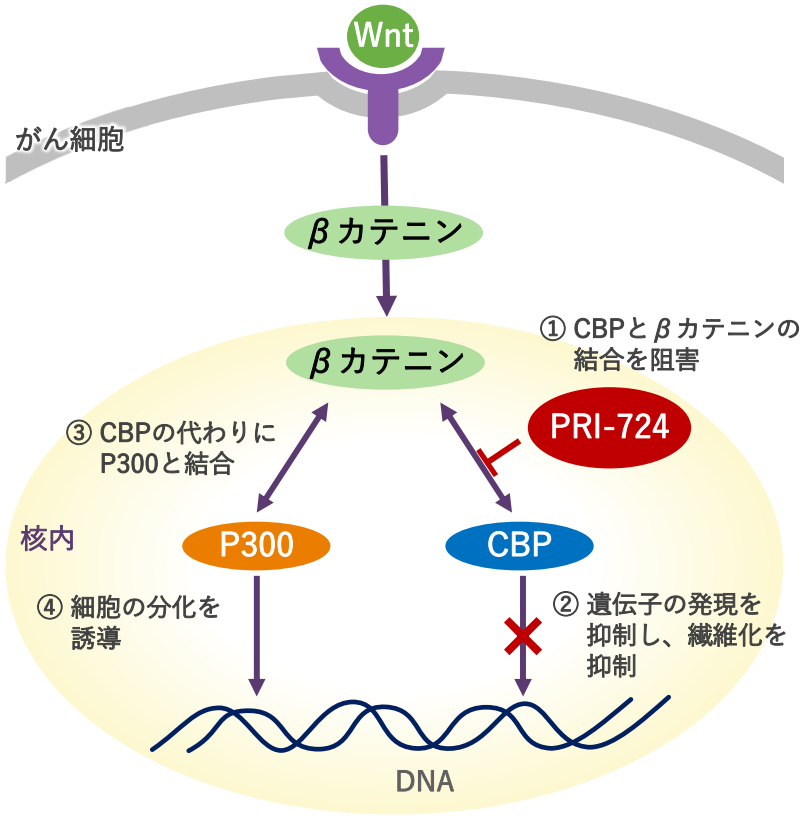


※1：E7386はエーザイと共同創製した化合物
※2： CR, complete response; dMMR, mismatch repair deficient; MMR, mismatch repair; NE, not evaluable; PD, progressive disease; pMMR, mismatch repair proficient; PR, partial response; SD, stable disease; RECIST, response evaluation criteria in solid tumors.
出所：eClinicalMedicine. 2026;100:104
※3：本剤は、エーザイが創製し、エーザイと Merck & Co., Inc., Rahway,NJ, USA が提携契約のもと、共同開発および共同商業化を行っています

臨床開発プログラム：PRI-724

PRI-724は第I/IIa相試験において肝硬変患者の肝硬度および肝機能を改善した（ヒトPOC達成）

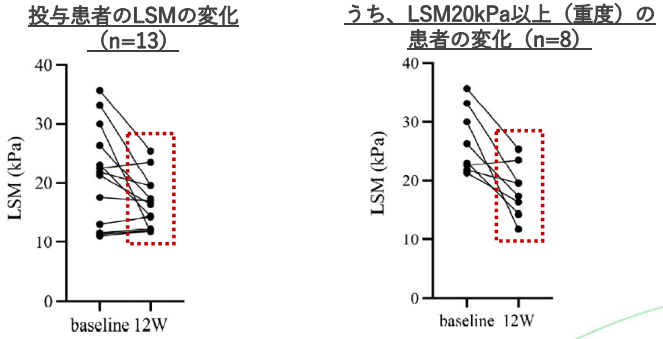
PRI-724の作用機序



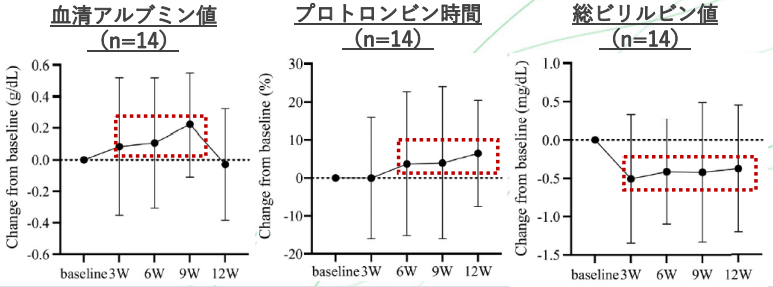
第I/IIa相試験の臨床試験データ

CBP/β-カテニン阻害薬PRI-724は、 C型またはB型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者を対象とした第I/IIa相試験において、肝硬度および肝機能を改善した（NCT03620474）。

✓ PRI-724投与による肝硬度（LSM）：有意な改善が認められた。

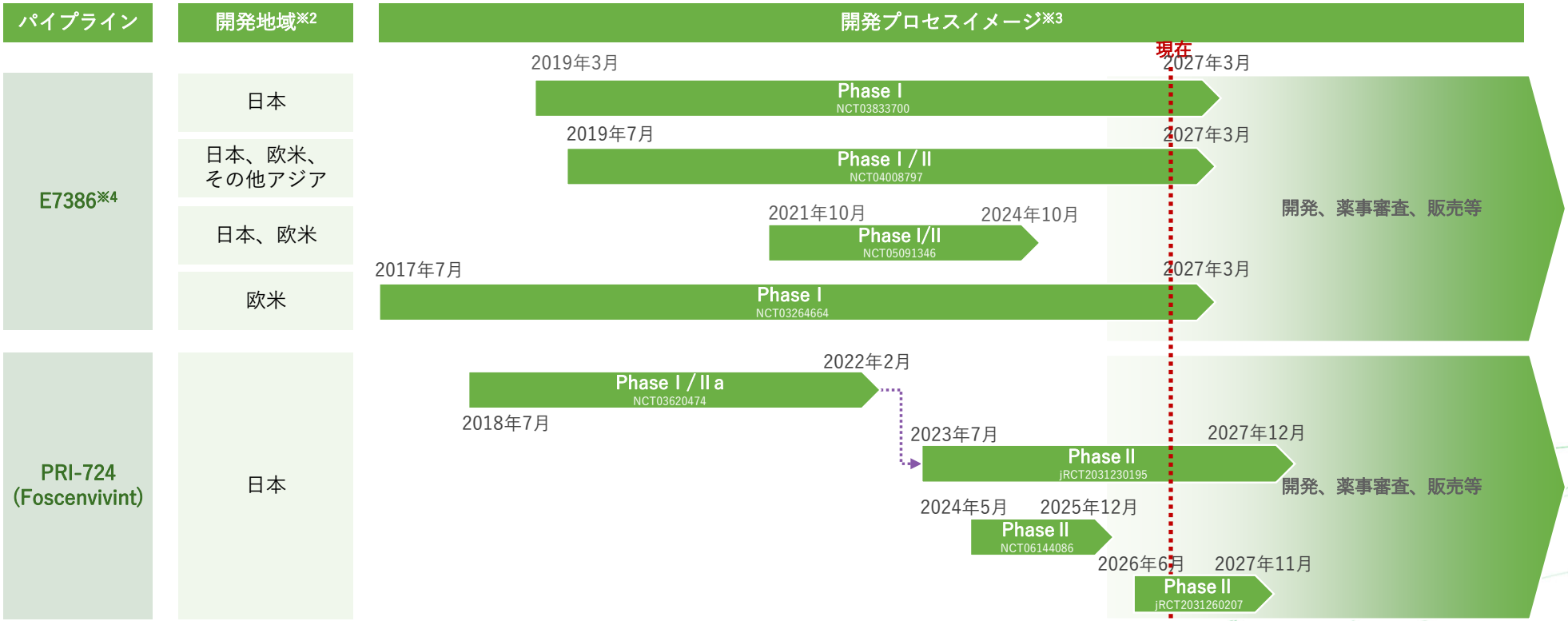


✓ PRI-724投与による肝機能：血清アルブミン値、総ビリルビン値及びプロトロンビン時間において、ベースラインに対する改善が認められた。



出所：Kiminori Kimura et al. *Safety, tolerability, and anti-fibrotic efficacy of the CBP/β-catenin inhibitor PRI-724 in patients with hepatitis C and B virus-induced liver cirrhosis: An investigator-initiated, open-label, non-randomised, multicentre, phase 1/2a study*（DOI: 10.1016/j.ebiom.2022.104069）

臨床開発の進捗※1



※1：開発、販売地域はアライアンス先の開発・販売戦略毎に異なります。上記の情報には、現在入手可能な情報に基づく当社の判断による、将来に関する記述が含まれています。そのため、上記の情報は様々なリスクや不確実性に左右され、実際の開発状況はこれらの見通しとは大きく異なる可能性があります。
導出された製品候補については、パートナーが今後の開発・商業化の第一義的な責任を負います。
※2：開発地域は当該臨床試験の実施国が属する地域を記載しております。 情報は、 2026年９月30日時点でのjRCT又はClinicalTrials.govに基づくものであり、変更になる可能性があります。
※3：開発プロセスイメージにおける臨床試験期間は、2026年９月30日時点でのjRCT又はClinicalTrials.govに基づくものであり、変更になる可能性があります。また、臨床試験期間は、当該臨床試験の開始日（予定日）・終了日（予定日）を参照しております。開始日について、症例登録開始日（予定日）、被験者登録組入日の開示がある場合は当該時期を開始日として参照しております。
※4：E7386はエーザイと共同創製した化合物
出所：jRCT、ClinicalTrials.gov

共同研究事業の進捗

- 小野薬品工業
  - 2025年11月：**初回マイルストン達成**、一時金及び共同研究費※1を受領
- パートナー企業（非開示）
  - 2026年１月：**新規プログラムを開始、マイルストン達成**に伴う一時金を受領
  - 2026年６月：**ＳＡＲ研究の実施を決定、研究受託**の対価※2を受領
- LES LABORATOIRES SERVIER
  - 2025年10月に共同研究契約を終了
- Boehringer Ingelheim International GmbH
  - 2026年５月に研究及びライセンス契約を終了
- Merck Healthcare KGaA
  - 2026年11月に共同研究契約を終了



※1：共同研究期間に応じて按分して計上
※2：研究受託の進捗に応じて計上

技術の潜在価値から、創薬資産の顕在化、そして価値の実現へ

01 創薬研究基盤の構築と継続的な進化

多様な創薬技術を統合し、探索能力を強化

02 有望**Hit**の継続的創出

高い市場性と差別化を重視したプログラムを形成

03 **Lead**化とポートフォリオ経営

優先案件に集中し、早期ライセンス機会を追求

創薬資産の価値を、継続的なライセンス収益へ



Appendix

詳細財務諸表





2026年度の財務状況

518百万円

売上高

前期677百万円

▲1,119百万円

営業損益

前期▲774百万円

1,841百万円

現金及び預金

期末・貸借対照表

741百万円

現金同等物

期末・CF計算書

※　現預金のうち、11億円は3カ月以上の定期預金のため、現金同等物に含まれていない



2026年９月期　通期業績ハイライト

2026年９月期　損益状況

単位：百万円

科目名	2025年 ９月期	2026年 ９月期	増減
売上高	677	518	△159
売上総利益	269	156	△110
販売費及び一般管理費	1,044	1,275	+231
営業損失	△774	△1,119	△345
営業外収益	26	31	+5
営業外費用	―	―	―
経常損失	△748	△1,088	△340
特別損失	82	92	+10
当期純損失	△833	△1,183	△350

2026年９月期　通期業績ハイライト

2026年９月期　財政状況

単位：百万円

科目名	2025年 ９月期	2026年 ９月期	増減
流動資産	3,038	2,002	△1,036
うち現金及び預金	2,915	1,841	△1,074
固定資産	46	45	△1
資産合計	3,085	2,047	△1,038
流動負債	370	473	+103
うち契約負債	236	335	+99
固定負債	6	6	―
負債合計	376	480	＋104
純資産合計	2,708	1,567	△1,141
負債純資産合計	3,085	2,047	△1,038

2026年９月期　通期業績ハイライト

2026年９月期　キャッシュフロー状況

単位：百万円

科目名	2025年 ９月期	2026年 ９月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	**△1,468**	**△1,012**	**+456**
税引前当期純損失	△831	△1,180	△349
契約負債の増減額(△は減少)	△663	98	+761
減損損失	82	92	+10
その他	△56	△22	+34
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△69**	**△1,205**	**△1,136**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**33**	**25**	**△8**
現金及び現金同等物に係る換算差額	**27**	**19**	**△8**
現金及び現金同等物の増減額	**△1,476**	**△2,174**	**△698**
現金及び現金同等物の期首残高	4,392	2,915	△1,477
現金及び現金同等物の期末残高	**2,915**	**741**	**△ 2,174**

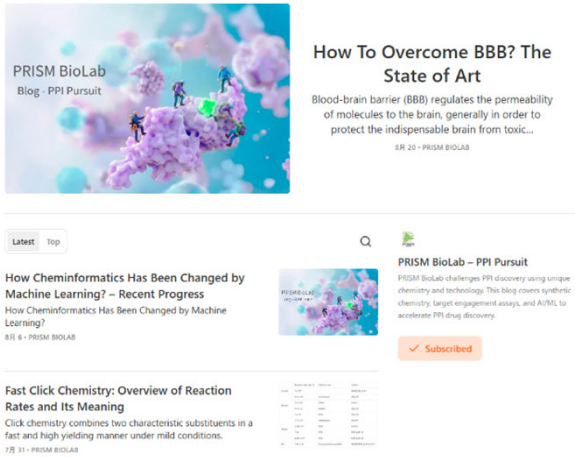
ホームページリニューアルのお知らせ

- ホームページリニューアル　https://prismbiolab.com
  - 2026年８月：当社ホームページを全面リニューアル
    - デザインやレイアウトを一新するとともに、当社の研究開発活動やPPI創薬への取り組みをより分かりやすくお伝えすべく、コーポレートサイトを刷新いたしました。









今後も、より見やすく、より当社をご理解いただけるホームページを目指してまいります。

ありがとうございました

PRISM BioLab

〒251-8555
神奈川県藤沢市村岡東二丁目26番地の1

